主論文の要約

Identification of periodontal bacteria from carotid artery plaque in chronic periodontitis patients. （慢性歯周炎患者における頸動脈狭窄部位からの歯周病原菌同定）

東京女子医科大学歯科口腔外科学教室

（主任：安藤智博　教授）

守田　誠吾

J Oral Maxillofac Surg Med Pathol (2013)
DOI：10.1016/j.ajoms.2013.05.001

【目的】頸動脈狭窄症の治療の為に頸動脈内膜剥離術を施行する患者から得られた頸動脈プラークサンプルについて歯周病原菌の存在を検証し、歯周病と頸動脈狭窄症の関係を検討することである。

【対象および方法】東京女子医科大学病院で頸動脈狭窄症に対して頸動脈内膜剥離術を施行し頸動脈プラークサンプルを採取した16症例を対象とした。 同対象群のパノラマエックス線写真を撮影し、口腔内から歯周ポケット内プラークサンプルを採取した。頸動脈プラーク、歯周ポケットプラークサンプルよりゲノムDNAを抽出し、*Aggregatibacter actinomycetemcomitans*（以下*A.a.*）*Porphyromonas gingivalis*（以下*P.g.*） *Tannerella forsythensis*（以下*T.f.*） *Treponema denticola*（以下*T.d.*） *Prevtella intermedia*（以下*P.i.*）に対する特異的なプライマーを用いたPCR法により頸動脈プラークサン

プルからの歯周病原菌の検出を行った。歯周病進行度はパノラマエックス線写真上における骨吸収度を計測した。

【結果】歯周病原菌由来のDNAが16症例中13症例から検出された(81.25%)。最も高頻度に検出されたのは*P.g.*であり、62.5%であった。*A.a.*は25%で検出され、*T.f.*は43.75%において細菌由来DNAが検出された。一方、*T.d.*および*P.i.*は頸動脈プラークからは検出されなかった。エックス線写真で20%を超える骨吸収度を示した患者では、20%以下の患者群と比較して有意に多くの歯周病原菌が頸動脈プラークから検出された。

【考察】歯周病菌が頸動脈プラークから検出されること、歯周炎の進行と頸動脈からの細菌の検出が相関することが示唆された。また、歯周病によって口腔内に繁殖した歯周病原菌が血流を介して頸動脈へ移動し、動脈硬化の局所の病変に何らかの影響を及ぼしていると示唆された。

【結論】本研究の結果は頸動脈プラーク中から歯周病原菌由来DNAが検出される事を示し、両疾患の関係性を示唆した。歯周病の進行に伴い頸部プラークからの検出菌数が増加するという結果から、歯周病の進行によって口腔内で増殖した歯周病原菌が頸部へ移動する可能性が示唆された。